

1 研究主題

「対話を通して主体的に問題を解決する児童の育成」

2 研究内容

これからの理科教育においては、自然事象への働きかけを通して問題を見だし、学び合いを通して問題を解決する学習の充実が求められている。その具現化のためには、より積極的に自然事象とふれ合い、主体的・対話的に問題を解決する力を育成していく事が大切である。

理科部では、これまで、科学的な思考力や表現力の育成を目指して研究を進めてきた。今年度は、これまで積み重ねてきたことに加え、自然・人・自分と対話し、見いだした問題を自分のこととして捉え、主体的に問題を解決していける児童の育成を目指して研究を進めている。その具現化のために、理科の見方・考え方を働かせて、問題を見いだす力や根拠ある予想や仮説をたてる力を養うことを共通理解のもと、それぞれの学校で実践を重ねている。さらに、これからの理科教育の在り方について研究授業を通して学び、教師側も理科授業の面白さを共有し、理科授業のさらなる充実を図れるようにしている。そして、児童が自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行い、自然の事物・現象について見いだした問題を科学的に解決できる資質・能力を育成することを目指している。

《研究の柱》

○自然との対話 …自然に働きかけ、自然から学ぶ。

◎人との対話 …話し合いを通して、情報を共有し、協力して問題を解決する。

○自分との対話 …自分の認知活動を自覚し、省察する。



主体的・対話的で深い学び

自己責任を貫き、協力したり他者と理解し合おうとしたりしながら問題を解決する。

《方法・留意点》

- 理科の本質的な楽しさを味わえるような教材・教具、実験・観察の方法、学習過程、指導法について様々な観点から検討し、理科学習の充実を目指していく。
- 問題解決の学習過程に沿った授業を展開することで、児童の科学的思考力を高められるように授業デザインを工夫していく。
- これからの理科教育の在り方を踏まえ、理科の見方・考え方を働かせ、「比較」、「関連付け」、「条件制御」、「多面的に考えること」などを重点とした授業づくりを通して研究主題に迫り、問題解決の力を養えるようにしていく。
- 対話的な活動の際は、タブレット PC を有効活用していけるように、活用場面が児童にとって有効であるかをよく検討しながら取り入れていく。
- 実技研修を通して、安全面の配慮や注意点などを学ぶとともに、理科授業の楽しさを教員同士で味わう場を作っていく。
- 3回の研究授業を実施し、授業中心の研究を行う。また、授業研究を通して系統的な指導を目指していく。
- 中学年ブロック、高学年ブロック、専科ブロックの3つの分科会に分かれ、授業研究に向けての事前の協議や予備実験などを行い、研究を進めていく。